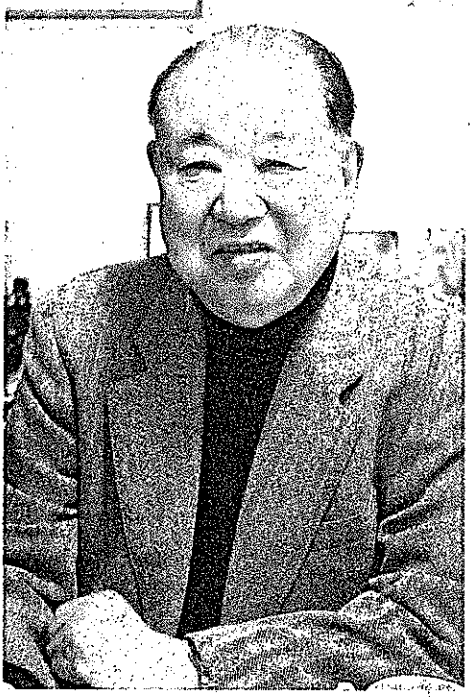


許すな 安倍9条



かわい ていいち 1933年、宮城県白石市生まれ。東北大学卒業。84年から白石市長を5期20年務める。「憲法九条を守る首長の会」会長。

私は、かつて自民党宮城県連の青年部長も務めた保守の人間です。しかし、改憲を公言した第1次安倍内閣への危機感から、2008年に「憲法九条を守る首長の会」を結成しました。東北6県では「市町村長九条の会連合」を結成し、さらに全国に広げようとしています。

憲法九条を守る首長の会会長

川井 貞一さん

3000万署名 大きな勝負

国民の願い燃え

あり、憲法9条は安全、安心を守る最高の保障です。

原点に父の思い

私が命がけで9条を守ろうと決めた原点には、父が抱き続けた深い悔恨があります。戦時中、校長だった父は、「やめてくれ」と泣いて訴え

る親を強引に説得し、教え子を戦地に送り出していました。終戦を迎えても帰ってこない子どもたち。父は「申し訳ない」と悔やみ続けまし

た。自衛隊は、東日本大震災の時に頑張ってくれましたが、外国に送り出して戦をさせるわけにはいけません。

安倍首相は、日本国憲法は米国から押しつけられた憲法だといいますが、北朝鮮問題で国民を脅しつけ、憲法に書

きもつとする自衛隊こそ米国から押しつけられたものです。朝鮮戦争勃発（1950年）を機に、日本の再軍備を狙ったマッカーサー元帥の指令を受けて警察予備隊が創

設され、その後、さらに激しい米側の要求で自衛隊へと発展していったのです。

超えてともに立ち上がり、改憲ノ一の巨大なエネルギーをつくる必要があります。今後の日本のあり方を決する大きな勝負です。国民は誰も戦争を望んでいない。私たちの運動の基盤はここにこそあります。戦争はいやだ」という国民の願いを草の根から燃え

上げたのです。

この9条を踏みじり、集団的自衛権を認めた安保法制のもとにある自衛隊を書き込もうという。安倍首相は米国本が核戦争に巻き込まれうる危険を生み出し、中東では米

聞き手・写真 秋山豊